

薬草園の花だより

第 28 号

2021 年（令和 3 年）4 月 14 日発行

■第 28 号に寄せて

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。是非、新鮮な向学心を忘れず、今抱いている目標が達成されることを祈念いたします。ひとつの目標を達成すれば必ずや次の目標が自ずと見えてきます（ひとつの山の頂上に登るとさらに高い別の山が見えてきます）。健康に留意しつつ頑張ってください。

例年になく早い桜の開花で、学内のソメイヨシノ（*Prunus yedoensis*、バラ科）は今やもうすっかり散ってしまいました。今、キャンパス内では八重桜が満開の時期を迎えています。薬用植物園の温室東棟の外には、これでサクラの仲間？と思えるほど印象の異なる花をつけるウワミズザクラ（*P. grayana*）も満開です。是非、この機会に御覧ください。



日本薬科大学研究実習棟と八重桜

世の中は依然として新型コロナウイルスおよびこのウイルスによってひきおこされる感染症（COVID-19）の脅威にさらされていますが、なんとか十分なワクチンの供給などによって、このウイルスとの共存がはかれるようになることを祈るばかりです。

さて、ここところ、一挙に春を迎えた薬用植物園でも様々な植物たちが春の動きを早めはじめました。

キャンパス内の森の近くには、アカメガシワ（*Mallotus*

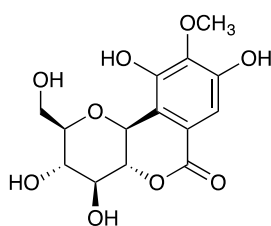


ウワミズザクラ

japonicus、トウダイグサ科）が自生していて、新葉を出し始めました。新葉はあざやかな赤色で見れば見るほど美しいです。この植物には樹皮にベルゲニン（bergenin）という化合物が含まれています。天然物化学を履修した方はこの化合物の化学構造式を見てその生合成経路を推定してみてください。ベルゲニンは、シキミ酸誘導体に L-グルコースが C-配糖体として結合して生合成されます。



アカメガシワ



ベルゲニン

また、薬用植物園の園路の周辺を注意深く観察するとフデリンドウ（*Gentiana zollingeri*、リンドウ科）があちこちに咲いています。本当に

小さな植物で、うっかりすると踏みつけてしまいそうです。周りの葉の大きさと比べてください。フデリンドウは小さく



フデリンドウ

でも凛とした印象を持つとても美しく整った花をつけています。

（日本薬科大学薬用植物園長／船山信次）

■今咲いています・見頃です

コロナ禍の真っ只中ですが、本格的な春の到来は嬉しいものです。そして、植物たちはこのような事態の中でも今までと全く同じ様子で春の活動を始めており、まるで私たちを励ましてくれているようです。

《アカヤジオウとカイケイジオウ》

薬用植物園の温室南側の圃場でアカヤジオウ（*Rehmannia glutinosa* var. *purpurea*、ハマウツボ科）とカイケイジオウ（*R. glutinosa* var. *hueichingensis*）がともに開花しています。

アカヤジオウを漢字で書くと赤矢地黄となります。中国原産の多年草で、栽培は難しいとされますが、本学の薬用植物園ではよく育っています。一方、カイケイジオウはアカヤジオウの改良種とされ、その名は、中国河南省の懷慶で多く栽培されているために付きました。

これらはいずれも生薬のジオウ（地黄）の基原植物となっています。ジオウとはこれらの植物の肥大した根の乾燥品であり、補血、強壮などの目的で使われています。武田薬品工業（株）の京都試験農園では、この両者の交配により、新たな品種である「フクチャマ1号」を作出したとのこと。今、薬用植物園では双方とも満開ですから、両者の地上部の様子や花を比べて見てみるチャンスだと思います。



アカヤジオウ



カイケイジオウ

《ビワ》

薬用植物園の外になりますが、キャンパス内のテニスコートの北側にある学生寮の前のビワ（*Eriobotrya japonica*、バラ科）が実をつけ始めました。ビワの葉は鼻詰まりの解消や鼻の炎症を鎮める目的で用いられ、辛夷清肺湯（しんいはいせいとう）という漢方処方にも配合されます。また、民間薬的には煎じた汁を皮膚炎やあせも対応のために湿布したり、浴用料としたりして使用されます。



ビワ

■次のような植物も開花中です

前回は「夏の藤に対抗するのが冬の竹」ということでモウソウチクを紹介しましたが、夏の花の代表ともいわれるフジが温室の北東にある水生植物園の近くで見事な花をつけています。フジは幹が大木になるにしたがって花の房が長くなるそうです。本学薬用植物園のフジも幹がだんだん充実してきたのか、花房がだいぶ長くなってきて、なかなか見事です。



フジ

また、薬用植物園の南側の入り口付近ではネモフィラがたくさんの花を着けています。さらに、

温室西棟近くの道を少し西側に歩くと、ドウダンツツジが清楚な花を着けているのが見られます。ツツジ類はグラヤノトキシ



ネモフィラ



ドウダンツツジ

ンと総称されるジテルペン系の有毒物質を含みますので、養蜂業者は気をつけているようです。

そして、建学碑の前のピオラが満開の時期を迎え、見事な様子ですが、両脇にはアリッサムも満開となり始めました。ひとつひとつの花は小さいですが、こんもりと丸くひとかたまりとなって咲く姿は見事です。是非足を止めてご覧になってみてはいかがでしょうか。



スイートアリッサム

■薬用植物園からのお知らせ

《これから次々に開花します》

本格的な春が到来しました。新型コロナウイルス禍のために、まだ種々の活動に不自由なところはありますが、薬用植物園では皆さんがいついらしても大丈夫なように、植物の世話が続けられています。これからの約2ヵ月間はとくにたくさんの花が開花します。機会を見つけて是非、薬用植物園を訪れてください。お待ちしております。